

令和6年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22046	事業名	三重大学亀山地域医療学講座支援事業		評価分類	A1	
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(寄附金)						
	施策体系	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実		予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	01:健康づくりの推進と地域医療の充実			款	04:衛生費	
		施策の方向	04:地域医療体制の充実			項	01:保健衛生費	
重点プロジェクト		-		目		01:保健衛生総務費		
事業期間	H 23 年度 ~ R - 年度	主な根拠法令等	寄附講座の設置に関する協定書					

担当部署	
部	健康福祉部
課	健康政策課 健康づくりG

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	市民が健康で安心して暮らせるよう、市立医療センターの基幹的機能の維持ならびに救急医療体制を整えるため、継続的に医師確保に努める必要がある。	市立医療センター受診者及び医療講座等の参加者	三重大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保することで、地域の医療体制を強化する。	三重大学が、市立医療センターにおいて、内科(総合診療)の診療体制を整えながら、実際の診療を通して地域医療を担う医師(総合診療医)を養成するための教育や亀山市をフィールドとした地域医療に関する研究等を実施することに対し、寄附講座の設置に関する協定書に基づく寄付を行う。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度				
事業計画		○三重大学への寄付	○三重大学への寄付	○三重大学への寄付	○三重大学への寄付				
活動実績 (計画通り実施できたか)		寄附講座設置協定に基づき、三重大学への寄付を行った。講座における医師数の減少に伴い、市立医療センターへの常勤換算医師派遣数が減少した。このことにより、計画額から10,000千円の減額となった。また、卒前医学教育及び卒後臨床研修を市立医療センターにて行うことで、将来、本市での診療を行う可能性のある医学生を養成した。	寄附講座設置協定に基づき、三重大学への寄付を行い、市立医療センターへの常勤医師派遣数を維持し医療体制を整えたことで、市民への安心・安全に配慮した医療を提供できた。	寄附講座設置協定に基づき、三重大学へ寄付を行った。亀山地域医療学講座を継続することで、市立医療センターへ常勤医師1名が派遣され、地域医療体制を確保し、市民への安心・安全に寄与することができた。また、医学生及び初期・専門研修医を受け入れ、地域医療を担う医師を養成することができた。					
③ 事業の実施状況 (P・D)	計画額	事業費	31,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円	
		国・県支出金		0千円		0千円		0千円	
		地方債		0千円		0千円		0千円	
		その他		0千円		0千円		0千円	
		一般財源	31,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円
決算額	事業費		21,200千円		21,200千円		21,200千円		
	国・県支出金		0千円		0千円		0千円		
	地方債		0千円		0千円		0千円		
	その他		0千円		0千円		0千円		
	一般財源		21,200千円		21,200千円		21,200千円		
①期間内計画額(R4-7)			94,800千円	②期間外計画額(R8-)		-	①+②総計画額	94,800千円	

(令和6年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	21,200千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	三重大学への寄附	活動		計画値 実績値	寄附実施 21,200千円	寄附実施 21,200千円	寄附実施 21,200千円	寄附実施
	寄附講座で配置された医師数	成果	人/日	計画値 実績値	2 1	1 1	1 1	1
				計画値 実績値				

判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
⑤ 成果 (C)	A 地域医療学講座を通じて医師の確保が進み、外来・入院診療、救急医療の提供体制が充実したことで、市民が必要なときに適切な医療を受けられる環境が整備された。また、亀山地域医療学講座の教員が中心となり、在宅医療を提供することで、高齢者や通院が困難な患者が適切なケアを受けられるようになり、地域全体の福祉の向上にもつながった。
	十分な成果を得た

事業の対象	事業の目的
市立医療センター受診者及び医療講座等の参加者	三重大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保することで、地域の医療体制を強化する。

(再掲)

事業の達成状況等を踏まえた課題事項
⑥ 課題 (C)
令和6年度については市立医療センターへの派遣常勤医師数は計画値を確保できたものの、安定的な医師確保のため、他の医療系大学等を含め、幅広い手法での支援策を長期的に考えていく必要がある。

方向性	
⑦ 事業の展開 (A)	
継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する	
改善・見直し内容	
令和7年度で対応する(した)もの 協定を継続し長期的に安定した連携方策について、市立医療センターと連携して検討する。	令和8年度以降で対応するもの 今後も協定を継続して三重大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保することで、地域の医療体制を強化する。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
⑧ 履歴				
成果判定	B	A	A	
事業展開	継続(拡大)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	

1次評価者	健康福祉部 健康政策課 健康づくりGL 小坂 聡子
最終評価者	健康福祉部 健康政策課長 櫻井 ころ